

氏 名：詹 瑾

学 位 の 種 類：博士（芸術工学）

学 位 記 番 号：課博第 131002 号

学位授与年月日：平成 25 年 9 月 20 日

学位授与種類：学位規程第 4 条 第 1 項該当（課程博士）

学位論文題目：中国と日本の都市部における中高年女子の体型特性に基づいた既製服設計要因に関する研究

専 門 委 員：見寺貞子教授、小倉繁太郎教授、古賀俊策教授、丹田佳子（武庫川女子大学教授）

審査結果の要旨

本論文は、中国の高齢化が進む社会における中高年のファッション産業の急成長に着目し、衣服設計の分野から中国中高年女子の特性を活かした既製服設計要因を見出すことを目的としている。

著者は、中国と日本のファッションデザイン教育を学び、今後、中国のファッション産業界に就労する中、中国の既製服設計の背景には、日本の体型計測法や既製服設計技法、既製服規格を参考にデザインがなされ、中国人の体型特性を活かした衣服設計理論には至っていないと考えた。また、若者の既製服規格は策定されているが、年代により体型変化が表れる中高年女子を対象とした既製服規格においては未だ策定されていない現状であることも事前調査により明らかにした。そのような背景を踏まえて、著者は、中国人と日本人の体型の差異を明らかにした上で、中国人の特性を活かした中高年女子の既製服設計理論を構築することが必要であると考えた。

本論文の題目を中国・日本の都市部と設定したのは、中国は地域により体型差があると先行研究で明らかにされているため、研究対象者の所在地をこのように示した。また、既製服に着目したのは、中国の高齢者数が、2020 年には、2 億 4,800 万人、2050 年には、4 億人になると予測される中、大量生産が可能な既製服で対応することが最適であると考えたからである。

研究方法として、今後大きなマーケットと予測される購買意欲の高い 50・60 歳代を中高年ファッション市場の購買層と考え、本論文では、中国・日本の 50・60 歳代中高年女子を対象に、まず、彼女らの既成服設計に関わる文献調査及び本論文に関わる専門家へのヒアリング調査、中高年女子のファッション市場における現状調査を実施した。次に、両国中高年女子の体型及び既製服規格の適合性・衣生活に関する意識調査の比較分析を行い、中国中高年女子に有効な既製服設計要因と今後の課題を抽出し本論文をまとめている。

本論文は、第 1 章から第 7 章で構成されている。

第 1 章は「研究の概要」とし、本研究の背景や先行研究を踏まえて、目的、研究の方法、論文の構成、関連する用語の定義を述べている。

第 2 章は「中国・日本中高年女子における既製服設計の現状」とし、中国中高年女子の既製服設計の現状を把握するため、両国の年齢別人口推移及びファッション市場の調査を行っている。そして既製服設計に関連する計測法や規格等を比較検証し、その差異を示している。

第 3 章は「中国・日本中高年女子の体型特性」とし、中国・日本の 50・60 歳代中高年女子、各 100 名の三次元人体計測値を比較検証した結果から、両国中高年女子とも体型を表す項目として、体幹部と腕の周り寸法、丈寸法が関与している事、13/16 項目で有意差が見られ、両国の体型特性に差異がある事を明らかにしている。

第 4 章は「中国・日本中高年女子の既製服規格の差異」とし、第 3 章で得られた中国中高年女子の体型特性を、中国の既製服規格（GB/T1335. 2-2008）及び日本の JIS 規格（JISL4005:2001）に当てはめ、彼女らの適合率を検証した結果から、日本の体型区分表示（ウエスト無）を参考に再考する事、年代別の規格（中高年用規格）が必要である事、身長に対してバストとウエストの規格範囲を大きく取る事、身長・バスト・ウエストのサイズバランスも再考する事、ヒップサイズを明記した範囲表示もしくは単数表示の規格が必要である事を、今後の中国中高年女子の既製服規格の留意点として示している。

第 5 章は「中国・日本中高年女子の衣生活に関する意識調査」とし、中国・日本中高年女子の

衣生活の意識を分析考察した結果から、中国中高年女子のファッションへの関心度は、日本中高年女子と差はないが、個人のおしゃれを追求するまでは至っておらず、既製服が体型に合っているかの問題をクリアする段階にある事、ファッションへの意識やデザイン志向における差異があり、中国特有の文化や国民性を重んじている事を示している。

第 6 章は「中国中高年女子に有効な衣服設計要因の抽出」とし、第 3 章から第 5 章で得られた結果から、体型計測から得た衣服設計要因、既製服規格の適合率から得た衣服設計要因、衣生活に関する意識調査から得た衣服設計要因(社会性、文化と国民性、ファッション性、体型への適合性、機能性の付加)を示し、中国中高年女子の既製服設計に有用な要因の抽出を試みている。

第 7 章は「結語」とし、本研究の結果から得られた知見として、①中国・日本中高年女子の体型特性の把握、②中国・日本中高年女子既製服規格に対する適合率の把握、③中国・日本中高年女子の衣生活に関する意識の把握、④中国中高年女子の特性に適合した衣服設計要因の抽出が示された。

今後の課題としては、①中国中高年女子の体型計測の実施及び分析考察の必要性、②中国中高年女子の既製服規格の再考、③中国中高年女子の衣生活に関するニーズ調査の実施、④中国中高年女子に配慮した衣服設計要因の実践的アプローチからの検証、⑤「人間」と「衣服」と「生活」の関係性を重視した衣服設計指針の策定が必要であると述べている。

上記の結果は、今後、中国中高年女子の既製服設計に関わる要因となり、彼女らに対応する既製服設計理論として活用されるべき留意点と考える。

本論文の評価すべき点は、

1. 中国の高齢化が進む社会における中高年のファッション産業の急成長に着目し、中国の既製服規格の再考と未だ策定されていない中国中高年女子の既製服規格の必要性を示唆した事。
2. 既製服設計に不可欠な体型計測の重要性を示した事。
3. 中国と日本の既製服設計に関わる要因に差異があり、中国中高年女子の特性を活かした設計理論が必要である事。
4. 本研究は、中国のファッション産業(既製服産業)の一連のプロセスである市場調査、体型計測と既製服規格への適合性、衣生活への意識等を踏まえて、既製服設計要因を総合的な視点でまとめ示唆した事。

があげられる。本論文の内容を鑑みて、倉嘩氏は、研究者として必要とされる新しい領域を見極める洞察力や分析力、問題を解決し提案するデザイン力を兼ね備えている人物であると判断した。

平成 25 年 7 月 10 日、芸術工学研究科において本論文の専門委員が全員出席のもとに最終試験を行い、論文の内容について説明を求め、関連事項についての質疑応答を行った。その結果、委員全員の会議の結果、「合格」と判断された。

よって、詹瑾氏は、博士(芸術工学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。